

特許、著作権など無形資産評価 研究

商・劉慕和 専任講師

流暢な日本語。今でこそ読み書きも何不自由ないが、来日して2年ほどはちんぷんかんぷんだったそうだ。会計学を研究する台湾の学生は大半が米国へ留学する。大学のテキストは英語。それでも日本を選んだ。「アジアが好き。その中で日本は先進国だから」と言いつつ、表情を崩した。



研究室で文献に目を通す劉専任講師

研究開発過程の製品や技術、製法、技術ライセンス、ブランド価値、顧客チャイプス契約、人的資源などが挙げられる。その中で劉専任講師が取り組んでいるのが、無形資産で最も重要な研究開発費の評価についてである。米国での研究を考察して、その分析モデルを日本の企業に当てはめて研究。その価値は企業価値や株価と密に関連していることを実証的に証明した。

財務情報にも有用

研究開発費を重点に 財務諸表への取り入れが課題 株価などの関連も実証

「米国で問題となるのは、研究開発費はすべて発生時に費用として会計表の中にその投資に関する会計情報が見られない現状があるので、研究開発の価値が外部の人には分かりづらい。研究開発投資をどのように工夫して財務諸表に取り入れるかという研究になる」

研究開発投資を一度資産として財務諸表に取り入れる。こうすれば、株主の投資の意思決定などに役立つことになる。研究開発投資という情報が開示されることによって、財務情報の有用性が高まる。

日本での研究対象は、研究開発費が最も多い医薬品産業を中心にした。

「劉ゼミ」もスタート

留学した東北大学で田中教授は平成7年から4年間、本学商学部で教えていた。その関係で本学に「劉ゼミ」もスタートした。



研究室でゼミ生の土屋隆幸君と貝塚小百合さん（ともに2年生）を指導する劉専任講師

劉慕和（りゅうむわ）専任講師となり、管理会計論を担当。研究開発費など無形資産の会計学卒業。8年来、計処理を研究。日本会計学学会、日本管理会計学会、日本原価学会、日本原価学会後援会（経営学計算研究会など）に所属。本学商学部助属。台湾台北市生まれ。35歳。

プロフィール

計理学会、日本管理会計学会、日本原価学会、日本原価学会後援会（経営学計算研究会など）に所属。本学商学部助属。台湾台北市生まれ。35歳。

幕末の写真技法を復元再生 する研究

芸術・高橋則英 教授

研究課題は「幕末明治の写真」。日本の写真的歴史における我が国の写真史は、写真が伝来してき真技法の復元再生に関する1848年（嘉永元年）



高橋教授の左手前にある装置が、復元されたキャビネ版銀器（湿板写真用硝酸銀薬）

研究は「幕末明治の写真」。日本の写真的歴史における我が国の写真史は、写真が伝来してき真技法の復元再生に関する1848年（嘉永元年）中心とした写真史を研究している。

湿板写真の再現から 木製携帯暗室復元も

木製携帯暗室復元も



熊本県伝統工芸館で、復元製作中の携帯暗室を調べる高橋教授

「湿板写真とは、ガラス板に沃（よう）化物や臭板に沃（よう）化物を含むコロジオンと呼ばれる写真技術（コロジオン湿板法）の再現とその機材の復元に力を注いでいる。」

明治中期まで実用

湿板写真とは、ガラス板に沃（よう）化物や臭板に沃（よう）化物を含むコロジオンと呼ばれる写真技術（コロジオン湿板法）の再現とその機材の復元に力を注いでいる。

出来事である。

この湿板の技術について、実際の技術がどういったものであったか、細かく調べていく必要がある。その際、材料が一つ、数年前から手掛けているのが携帯暗室の再現。トランクの形をした木製の持ち運びの出来る箱で、台の上に寝かして蓋側を直角に立てると本体が流しとしての機能を果たし、中にしまっている暗幕を頭からすっぽりかぶると暗室になる。

訪れる機会が多い。今年、写真技術の導入後、同写真館の開設140周年にあたるのを機に、11月初旬に現地でシンポジウムも計画している。

研究が進んでいるとは、写真がわが国に入ってきたころの細かいことは、まだまだはっきりしていないことが多い。それだけに、写真は研究に値する。奥深さを持っている」と高橋教授は話す。

プロフィール

写真部 門、東京都

高橋 則英（たかはし のりひで）昭和53年、日本写真学会理事、川崎市市民ミュージアム作品収集委員。61年同学部助手となり、平成2年専任講師。8年助教、14年写真美術館企画諮問会から教授。研究領域は写真史及び写真の保存。群馬県出身。52歳。